

分類語彙表

増補改訂版

国立国語研究所 編

大日本図書

目 次

刊行のことば

まえがき	3
1. 本書について	
2. 収録した語句について	
3. 分類について	
4. 増補改訂の内容について	
元版のまえがき	9
分類項目一覧	17
分類語彙表	33
1 体の類	35
2 用の類	236
3 相の類	322
4 その他の類	357
索引	363
あとがき	709
〔付 録〕CD-ROM	

まえがき

1. 本書について

本書は、昭和39年に国立国語研究所資料集第6として公刊した『分類語彙表』¹⁾の増補改訂版である。『分類語彙表』という名称については、「元版のまえがき」(p.9)を参照せられたい。

2. 収録した語句について

本書に収めた語句は、文法上の自立する「単語」を基本にするが、それと同様の意味上の働きを持つ連語・接辞・慣用句等を排除しない。すべてを「語」と呼んでおくことにする。

語の採用範囲であるが、現代の日常社会で普通に用いられる語を中心に、各種語彙調査の結果その他から選定した。異なり語数は約8万語である(異なり語数とは、同一の語が何度出現しても1回と数えた場合の語数のこと)。一つの語が複数の分類項目に分類されることがあるので、収録した総語数としては約9万6千語となる。なお、耳慣れない専門用語や古語・方言、また社会生活上使用を遠慮すべき語の類は除いている。元版にあった語もその例外ではない。固有名詞については、原則として一般的な地名及び人名や組織名を例として収録するにとどめたが、普通名詞的に用いられる商品名については一部収録した。

本書に収録した語の数は以下のとおりである。

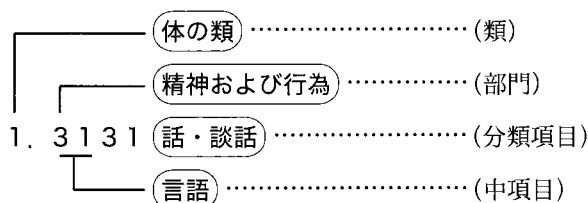
類	延べ	異なり
体	64,457	56,130
用	21,605	16,704
相	8,879	7,357
その他	870	789
全体	95,811	79,516 (注)

(注) 異なりは、それぞれの類の中で数えたものなので、異なりの欄を合計しても全体の数値とは一致しない。

3. 分類について

本書の分類方式は、分類番号を用いてそれぞれの分類項目の体系的位置付けを示したところに特徴がある。分類の各項目には、例えば「1.2340」のように類を整数位に置いて小数点以下4けたの「分類番号」が付されている。この数字全体あるいはその一部分が、全体の中に占める個々の分類項目の位置付けを示している。分類番号によって表される意味的範疇は、より広い概念から順に、「類」「部門」「中項目」「分類項目」となっている。以下にそれぞれの範疇を簡単に説明する。

<分類番号の構造>



〔類〕

最初に語を大きく四類に分ける。すなわち、1. 体の類、2. 用の類、3. 相の類、4. その他の類である。体の類は、名称を表す語で、名詞の類。用の類は、存在・活動を叙述する語で動詞の類。相の類は、状態を叙述する語で、形容詞・形容動詞・副詞・連体詞の類。その他の類は、一部の副詞、接続詞、感動詞である。

分類番号の整数位が上記の「類」の区分に対応する。なお、慣用句・連語については、個々の慣用句・連語の文法的な機能を考慮して、それぞれ適切な「類」に配置した。

〔部門〕

体・用・相の各類の中に、大きな意味のまとまりとして、「抽象的關係」「人間活動の主体」「人間活動—精神および行為」「生産物および用具」「自然物および自然現象」という五つの部門を設けた。ただし、用・相の類は、「人間活動の主体」「生産物および用具」の部門を欠く。部門は、小数点以下一けた目の数字で表される。

〔分類項目〕

体・用・相それぞれの類の中に、ほぼ同様の分類項目を設け、同様の配列をとった。三類相互の参照の必要から、原則として三類共通の項目名と項目番号を付けたので、類によっては番号が飛んでいる場合がある。分類番号はなるべく元版の番号を引き継ぐようにしたため、必ずしも連続していない。

〔中項目〕

今回の増補にあたって、試みとして中項目を設けた。これは、小数点以下一けた目と二けた目を合わせた部分に相当する。中項目は部門をより具体的に細分したもので、その下に位置する分類項目をまとめるものである（なお、中項目の一覧を「分類項目一覧」扉裏に掲げたので、参照されたい）。

なお、以上の意味的範疇に付けた見出しは、それらの内容がなるべくよく代表されるように選んだが、意味上の大体の目安にとどまるものである。

〔段落〕

また、増補により収録語数が多くなったため、分類項目の中に意味上の語集団を設けた。これを「段落」と名付けて番号を付けたが、これはもっぱら検索の便のためである。段落および段落内の語の順序は、なるべく意味・用法の広いほうから狭いほうへ配列しているが、必ずしも厳密ではない。なお、分類項目内での意味のまとまりの区切りを示すために

行間に*を表示したところがある。

4. 増補改訂の内容について

本書の初版は1964年(昭和39年)である。それ以来、各方面で使われてきたが、なにしろ「ワープロ」も「パソコン」もなかった40年も前のものであるので、増補改訂の必要があるのは当然である。今回、<体系の大きな変更は行わない>という方針のもとに増補改訂版を作ることにした。

4.1 増補の内容

元版の収録語数は約3万2千語であったが、今回の増補改訂版ではのべ約9万6千語に達した。これは一般の小型国語辞典に匹敵する量である。

複合語や新語を付け加えたことについては、特別の説明は必要ない。たとえば、シャツの類(1.423 下着・羽織・ズボン・コートなど)には、元版では、

ワイシャツ 開襟シャツ プラウス アロハ

があがっていたが、今回(1.4220 上着・コート)は、このほかに、

カッターシャツ ポロシャツ スポーツシャツ だぼシャツ アロハシャツ Tシャツ
タンクトップ

を増補した。形容詞・副詞の類でも、元版の<3.1661 新しい・古い>には、

古めかしい 古くさい 陳腐 常套 お定まり

をあげていたが、増補改訂版では<3.1660 新旧・遅速>に、これらのほかに、

アウトオブデート じじむさい 年寄り臭い 古色蒼然 時代がかった 古ぼけた
古びた かびの生えた[~考え] くたびれた[~服] 使い古した 旧態依然
因循 ありきたり 今に始めぬ

などがふえている。(ただし、「常套」「お定まり」の2語は、増補改訂版では体の類へ移っている。)

増補のうち、注意しておきたいのは、1)サ変動詞 2)慣用句 3)多義語 の3点である。

1)サ変動詞のうち、1字漢語に「する」がついた「愛する」「信ずる」の類は、元版にもはいつていた。しかし、2字以上の漢語をもとにした「愛好する」「信用する」「合理化する」などは、採用していなかった。これは、基準にした国語研究所の現代雑誌九十種の調査の単位が、参考にした阪本一郎『教育基本語彙』や一般の国語辞典とおなじく「愛好」「する」などに切れていたためである。たしかに、意味の説明を目的とする辞典ならば、「愛好」という項目があれば、これと別に「愛好する」という項目をたてる必要はないだろう。しかし、類義の表現をさがす、という分類語彙表の目的からすれば、

愛する 好む たしなむ 好く めでる 好き好む <2.3020 好悪・愛憎>
があれば、

愛好する 愛慕する 愛着する

も同じところにあった方がよく、

ほれる こがれる 恋いこがれる

があるなら、

恋する 恋愛する 懸想する 恋慕する

などもほしいところである。今回はこれらを増補した。

2) 辞典の見出し語と違う単位を増補した、という点では、慣用句もサ変動詞と同じである。<2.3020 好悪・愛憎>から例をひくと、元版の「愛する」に加えてサ変動詞の「愛好する」とともに、類義の「気に入る」を増補した。以下、「←」の左側が元版にある単語、右にあるのが今回増補した同義・類義の慣用句である。

きらう いたう うとんじる ← 虫が嫌う むしづが走る 嘔吐を催す
 いやがる ← 嫌気が差す 鼻に付く
 親しむ ← 気が合う 馬が合う 気を許す 情が移る
 あまえる あまつたれる ← 鼻を鳴らす 言葉に甘える
 憎む ← きばをむく 修羅を燃やす
 こがれる ← 胸を焦がす 思いをはせる
 なつかしむ なつかしがる ← 後ろ髪を引かれる
 ねたむ そねむ やく ← 焼きもちをやく 角を生やす 角を出す

3) 基本語の多くは多義的である。その意味のそれぞれには、当然別の分類番号が与えられなければならない。元版においても「あがる」は、移動の意味では<2.1540 上がり下がり>に、終わる意味では<2.1502 開始・終了>に、食べる意味では<2.333 生活・衣食住>に分類されている。しかし、全体としては元版における多義語の処理は、不十分だった。今回の増補改訂版ではこの点を改良して、同じ単語を意味に応じて何箇所にも出すようにした。身体の部分名称の例をあげよう。「+」の左側は元版にあるもの、右が今回付け足した意味での分類番号と項目名である(元版と増補改訂版とで同じ項目の分類番号が異なる場合、増補改訂版の方で示した)。

頭 <1.5601 頭・目鼻・顔> + <1.3421 才能>
 顔 <1.5601 頭・目鼻・顔> + <1.3030 表情・態度>, <1.3041 自信・誇り・恥・反省>, <1.3142 評判>
 目 <1.5601 頭・目鼻・顔>, <1.1840 模様・目>, <1.1962 助数接辞>
 + <1.3061 思考・意見・疑い>, <1.3063 比較・参考・区別・選択>, <1.3066 判断・推測・評価>, <1.3091 見る>
 鼻 <1.5601 頭・目鼻・顔> + <1.5607 体液・分泌物>〔はな(涙)〕
 のど <1.5601 頭・目鼻・顔> + <1.3031 声>
 背 <1.5602 胸・腹・背> + <1.1740 左右・前後・たてよこ>, <1.1911 長短・高低・深浅・厚薄・遠近>
 胸 <1.5602 胸・腹・背> + <1.3000 心>
 胴 <1.5602 胸・腹・背> + <1.4252 武具・防具・刑具>
 腹 <1.5602 胸・腹・背> + <1.3000 心>, <1.3045 意志>
 ウエスト <1.5602 胸・腹・背> + <1.1911 長短・高低・深浅・厚薄・遠近>
 しり <1.5602 胸・腹・背> + <1.1742 中・隅・端>
 しっぽ <1.5602 胸・腹・背> + <1.1651 終始>, <1.1742 中・隅・端>

4.2 分類項目の修正

『分類語彙表』の組織は、大枠ではつぎのようになっている。なお、4.として「その他」

の類がある。

- | | | |
|------------------|-------------|------------------|
| 1. 体の類 (名詞) | 2. 用の類 (動詞) | 3. 相の類 (形容詞・副詞等) |
| 1.1 抽象的關係 | 2.1 抽象的關係 | 3.1 抽象的關係 |
| 1.2 人間活動の主体 | —— | —— |
| 1.3 人間活動—精神および行為 | 2.3 精神および行為 | 3.3 精神および行為 |
| 1.4 生産物および用具 | —— | —— |
| 1.5 自然物および自然現象 | 2.5 自然現象 | 3.5 自然現象 |

今回の改訂にあたって、この大枠はそのまま受け継ぐことにした。ただし、これ以下の小項目については、若干変更したことがある。これは、おもに名詞の分類と動詞の分類とが対応するようにしたためである。たとえば、元版では、

- | | |
|------------|-----------|
| 1.1500 作用 | 2.1500 変化 |
| 01 変化 | 01 改新・変換 |
| 02 同化・強化など | 02 開始・終了 |
| 03 変換 | 03 連続 |
| 04 改新 | |
| 05 開始・終了 | |
| 06 中止 | |
| 07 連続 | |

と、対応していなかったものが、増補改訂版では、

- | | |
|--------------|--------------|
| 1.1500 作用・変化 | 2.1500 作用・変化 |
| 01 変換・交換 | 01 変換・交換 |
| 02 開始 | 02 開始 |
| 03 終了・中止・停止 | 03 終了・中止・停止 |
| 04 連続・反復 | 04 連続・反復 |

と、完全に対応するようになっている。ただし、名詞の分類と動詞の分類とが、いつもこのように対応しているわけではない。また名詞と形容詞・形容動詞とのあいだでは、対応をとるのがきわめて難しく、あきらめざるをえなかった。

分類それ自体の変更ではないが、使いやすさのために、次の2つの修正をほどこした。

第1は、「中項目」の設置である。元版では、〈1.1 抽象的關係〉という部門の下位分類が〈1.1500 作用〉という分類項目だったのだが、今回、中項目を立てて、たとえば分類項目の〈1.1500 作用・変化〉から〈1.1584 限定・優劣〉までを〈1.15 作用〉という形でくくった。このようにして、〈1.1 抽象的關係〉の内部を以下の10の中項目に分けた。()のなかの数字は、そこに属する分類項目の数である。

- | | |
|---------|------|
| 1.10 事柄 | (4) |
| 11 類 | (9) |
| 12 存在 | (7) |
| 13 様相 | (13) |
| 14 力 | (4) |
| 15 作用 | (39) |
| 16 時間 | (26) |
| 17 空間 | (13) |

18 形 (6)

19 量 (20)

第2は、段落番号の設置である。元版でも、同じ分類項目に属する単語はいくつかのグループ(段落)に細分され、それぞれ先頭が1字下げになっていたのだが、特にそれぞれに番号が付けられてはいなかった。しかし、1994年に国立国語研究所言語処理データ集5として『フロッピー版分類語彙表』²⁾を出すにあたり、語の検索を容易にするために、これらの段落に番号を付けることにした。今回は、語数がふえたこともあって、段落番号の必要性は一層ましたと言える。しかし、これはあくまで検索の便宜のためであって、分類自体の小分けを意味するものではない。

4.3 体裁の変更

元版では、動詞は連用形を代表の形として見出しを立てていたが、増補改訂版では終止形に変更した。また、元版では、各項目の分類番号が小数点以下3けたのものと4けたのものがあったが、増補改訂版ではすべて4けたに統一した。

4.4 改訂の経過

国立国語研究所の所員を中心とする何人かの研究者の手によって、原編者の林大・元研究所長を含めて改訂の作業が始まったのは1981年である。宮島達夫・野村雅昭・中野洋などを代表者とする文部省科学研究費による研究という形をとったこともある。この作業は、中心となった中野の死去(1999年)によって一時停滞を余儀なくされたが、関係各位の努力によって、今回刊行の運びになった。

改訂作業にあたったのは、国立国語研究所員では

(故)中野洋・相澤正夫・山崎誠・笹原宏之・柏野和佳子・小沼悦

元所員では

林大・宮島達夫・野村雅昭・靄岡昭夫・石井久雄・石井正彦・加藤安彦・大島資生
である。なお、所外の

加賀美徹也・高木一彦・(故)藤田正春

ほかの各氏からも、有益な助言をいただいた。記して感謝の意を表する。

4.5 付録CD-ROMについて

CD-ROMには次の5つのファイルが収められている。

分類項目一覧 (koumoku.pdf)

分類語彙表 (bunrui.pdf)

索引 (sakuin.pdf)

逆引き索引 (rsakuin.pdf)

解説 (readme.txt)

詳細は上記解説のファイルを御覧ください。

1) 『分類語彙表』は絶版になっている。

2) 『フロッピー版分類語彙表』は絶版になっている。

分類項目一覧

1. 本書における意味の分類の大体を示すために、本表の各分類項目に与えた見出しの語句を、体・用・相の各類が見渡せるよう、平行させて分類番号の順で掲げる。その他の類は、最後に置いた。
2. 見出しの語句は、項目の内容を知るための大体の手掛かりであって、十分に総括的な意味をもつものばかりではない。
3. 見出しの中には、その項目に収めた語句のいくつかを併記したり、他の語句で説明したりしたものがある。
4. 分類項目の検索の便のため、「中項目一覧」をこの裏面に掲げた。中項目の説明については、まえがきの4ページを参照されたい。
5. 分類項目の総数は895である。

中項目一覽

	1 体の類	2 用の類	3 相の類
抽象的関係	1.10 事柄 …………… 35	2.10 真偽 …………… 236	3.10 真偽 …………… 322
	1.11 類 …………… 36	2.11 類 …………… 236	3.11 類 …………… 322
	1.12 存在 …………… 39	2.12 存在 …………… 237	3.12 存在 …………… 324
	1.13 様相 …………… 41	2.13 様相 …………… 240	3.13 様相 …………… 324
	1.14 力 …………… 45	2.14 力 …………… 242	3.14 力 …………… 328
	1.15 作用 …………… 46	2.15 作用 …………… 242	3.15 作用 …………… 328
	1.16 時間 …………… 58	2.16 時間 …………… 262	3.16 時間 …………… 330
	1.17 空間 …………… 65	2.17 空間 …………… 263	3.17 空間 …………… 333
	1.18 形 …………… 71		3.18 形 …………… 333
	1.19 量 …………… 73	2.19 量 …………… 263	3.19 量 …………… 334
人間活動の主体	1.20 人間 …………… 82		
	1.21 家族 …………… 84		
	1.22 仲間 …………… 86		
	1.23 人物 …………… 87		
	1.24 成員 …………… 93		
	1.25 公私 …………… 99		
	1.26 社会 …………… 102		
	1.27 機関 …………… 105		
人間活動 — 精神および行為	1.30 心 …………… 108	2.30 心 …………… 265	3.30 心 …………… 338
	1.31 言語 …………… 125	2.31 言語 …………… 279	3.31 言語 …………… 344
	1.32 芸術 …………… 138	2.32 芸術 …………… 285	
	1.33 生活 …………… 141	2.33 生活 …………… 286	3.33 生活 …………… 345
	1.34 行為 …………… 152	2.34 行為 …………… 294	3.34 行為 …………… 347
	1.35 交わり …………… 155	2.35 交わり …………… 296	3.35 交わり …………… 350
	1.36 待遇 …………… 160	2.36 待遇 …………… 300	3.36 待遇 …………… 350
	1.37 経済 …………… 165	2.37 経済 …………… 306	3.37 経済 …………… 351
	1.38 事業 …………… 171	2.38 事業 …………… 309	
	生産物および用具	1.40 物品 …………… 178	
1.41 資材 …………… 179			
1.42 衣料 …………… 182			
1.43 食料 …………… 186			
1.44 住居 …………… 192			
1.45 道具 …………… 195			
1.46 機械 …………… 202			
1.47 土地利用 …………… 206			
自然物および 自然現象	1.50 自然 …………… 208	2.50 自然 …………… 315	3.50 自然 …………… 353
	1.51 物質 …………… 210	2.51 物質 …………… 316	3.51 物質 …………… 355
	1.52 天地 …………… 216	2.52 天地 …………… 318	3.52 天地 …………… 356
	1.53 生物 …………… 219		3.53 生物 …………… 356
	1.54 植物 …………… 220		
	1.55 動物 …………… 223		
	1.56 身体 …………… 227	2.56 身体 …………… 318	3.56 身体 …………… 356
	1.57 生命 …………… 231	2.57 生命 …………… 318	3.57 生命 …………… 357
	4 その他の類	4.11 接続 …………… 358	
4.30 感動 …………… 359			
4.31 判断 …………… 359			
4.32 呼び掛け …………… 360			
4.33 挨拶 …………… 361			
4.50 動物の鳴き声 …………… 361			

(イタリックの数字は本表のページ数を示す)

分類項目一覧

1 体の類	2 用の類	3 相の類
1.1 抽象的關係	2.1 抽象的關係	3.1 抽象的關係
1.10 事柄 1.1000 事柄 1.1010 こそあど・他 1.1030 真偽・是非 1.1040 本体・代理 1.11 類 1.1100 類・例 1.1101 等級・系列 1.1110 關係 1.1111 本末 1.1112 因果 1.1113 理由・目的・証拠 1.1120 相對 1.1130 異同・類似 1.1131 連絡・所属 1.12 存在 1.1200 存在 1.1210 出沒 1.1211 發生・復活 1.1220 成立 1.1240 保存 1.1250 消滅 1.1251 除去 1.13 様相 1.1300 様相・情勢 1.1302 趣・調子 1.1310 風・觀・姿 1.1320 内容・構成 1.1330 性質 1.1331 特徴 1.1332 良不良・適不適 1.1340 調和・混乱 1.1341 弛緩・粗密・繁簡 1.1342 調節 1.1344 支障・損じ・荒廢 1.1345 美醜 1.1346 難易・安危 1.14 力 1.1400 力 1.1401 弾力・動力・圧力など 1.1402 物力・権力・体力など 1.1403 勢い 1.15 作用 1.1500 作用・変化 1.1501 変換・交換 1.1502 開始 1.1503 終了・中止・停止	2.10 真偽 2.1010 こそあど・他 2.1030 真偽・是非 2.11 類 2.1110 關係 2.1111 本末 2.1112 因果 2.1120 相對 2.1130 異同・類似 2.1131 連絡・所属 2.12 存在 2.1200 存在 2.1210 出沒 2.1211 發生・復活 2.1220 成立 2.1240 保存 2.1250 消滅 2.1251 除去 2.13 様相 2.1302 趣・調子 2.1310 風・觀・姿 2.1320 内容・構成 2.1331 特徴 2.1332 良不良・適不適 2.1340 調和・混乱 2.1341 弛緩・粗密・繁簡 2.1342 調節 2.1344 支障・損じ・荒廢 2.1346 難易・安危 2.14 力 2.1400 力 2.15 作用 2.1500 作用・変化 2.1501 変換・交換 2.1502 開始 2.1503 終了・中止・停止	3.10 真偽 3.1010 こそあど・他 3.1030 真偽・是非 3.1040 本体・代理 3.11 類 3.1101 等級・系列 3.1110 關係 3.1112 因果 3.1113 理由・目的・証拠 3.1120 相對 3.1130 異同・類似 3.12 存在 3.1200 存在 3.1210 出沒 3.1230 必然性 3.13 様相 3.1302 趣・調子 3.1331 特徴 3.1332 良不良・適不適 3.1340 調和・混乱 3.1341 弛緩・粗密・繁簡 3.1345 美醜 3.1346 難易・安危 3.14 力 3.1400 力 3.15 作用 3.1500 作用・変化

分類語彙表

1. 語形や表記の違いにかかわらず、同じ語とみなして「・」を用い、併記して示したものがあ。例えば、「まがう・まごう」や「検算・験算」などである。
2. 記述の簡略化のため、類似の慣用句や連語を「/」でひとまとめにしたものがある。例えば、「波紋を呼ぶ/が広がる」は、「波紋を呼ぶ」「波紋が広がる」の二つを便宜上一つにまとめたものである。
3. 読みが難解な語、複数の読みが想定でき、紛らわしいものについては、()内にその読みを示した。
4. 表記は、できるかぎり「常用漢字表」に沿うことを原則とした。ただし、表記の標準を示すだけでなく、その語がどのような語かを弁別することを優先した。また、漢語の場合、表外字あるいは表外音を用いて表記したものもある。
5. なるべく1語の表記形は、1種類にとどめたが、複数の表記を併記したものもある。
6. 同訓異字で、複数の表記を示す必要のある場合は、仮名を主表記とし、漢字を()内に示した。例えば、「はかる(計・量・測)」「まじり(交・混)」などである。
7. []内は注記である。注記は、その語の理解のために有効な文脈や使用分野を示した。例えば、「耳[パンの～]」「吹き出し[漫画]」などである。なお、注記中の「～」は、見出しとした語句の略である。
8. 前あるいは後ろに「-」を付けた語は接辞あるいは造語成分である。例えば、「-めく」「超-」などである。
9. 見出しの語句が句を形成するのに用いられる場合、前に来る語を「…」で示した。例えば、「…が早いか」「始まらない[…でも～]」などである。
10. 分類番号は、体・用・相の各類を相互参照させるため、また元版の番号をなるべく引き継がせるため、必ずしも連番になっていない。
11. 分類を一覧するには、「分類項目一覧」(p. 17)を、語を検索するには、「索引」(p. 363)を、それぞれ参照せられたい。

1 体 の 類

1.1 抽象的關係

【1.10 事柄】

1.1000 事柄

- 01 者(もの) の 分(ぶん) やつ
- こ[椀~]
- 02 対象 物(もの) 物(ぶつ) 物件
- 03 事(こと) 事(じ)
事象 物象
事柄 事物 物事 事情 諸行(しよぎょう)
雑事 雑件 関心事 注目的
難物 難件 盤根錯節
- 04 事項 条項 項目 アイテム 費目
項 前項 後項 別項 次項
条 くだり(件) 件 本件 別件
前件 後件 与件 所与
例 凡例
- 05 由(よし) 旨(むね) 儀 かど(廉)
その儀 その辺
余の儀 余儀 別儀
他事 余事 別事
別問題
- 06 一事 万事 百事 事事物物 諸事
一式(いっしき) 諸式・諸色
万端 万般 百般 諸般
あれこれ あれやこれや そんなこんな 何
やかや
- 07 一件 案件
さた
ケース テストケース
- 08 現象 自然現象 超常現象 心靈現象
- 09 事態
出来事 事件 ハプニング 青天の霹靂 珍
事 椿事
事故 交通事故 人身事故 アクシデント
変[本能寺の~] 事変 小変 大変 異変
凶変
凶事 変事 惨事 パニック
大事(おおごと) 大事(だいじ)
一大事 小事 瑣事・些事 細事
茶飯事 枝葉末節 へったくれ
付かぬ事 よそ事 ひと事 対岸の火事
- 10 吉事 快事
笑い事 お笑い 噴飯物 ただ事
不祥事 スキャンダル
奇跡・奇蹟 ミラクル
騒ぎ 武勇伝 刃傷ぎた
- 11 能事
- 12 後事 往事 旧事 遺事 時事
- 13 風物

1.1010 こそあど・他

- 01 こ これ こちら これら これこれ これ
しき
- 02 そ それ そちら それら それしき
- 03 か あ あれ あちら あれら あれしき
- 04 どれ どっち どちら いずれ
どれか どちらか いずれか
- 05 這般(しゃはん)
- 06 何(なに・なん) 何ら 何(なに)か・何(なん)か
何らか
何事 何者 何事か 何かしら 何者か
- 07 前者 後者 他者
方(ほう) 他方
- 08 何何(なにになに) どれどれ 何(なに)くれ
*
- 09 その他 その外 自余
エトセトラ その他いろいろ
別 別様
別個 別口

1.1030 真偽・是非

- 01 真偽 真贋 真否 実否 黑白(こくびやく)
黑白(くろしろ) 白黒(しろくろ)
虚実 背理
- 02 真(しん) 真如 真理
真実 誠 真实性 真実味 実(じつ) 本当
ほんま 本来 本然 正真正銘 正銘
事実 現実 現実性 現実味 リアリティー
迫真[~の演技]
内実 實際 実地 情実 実のところ 真価
史実 実態 ありのまま あるがまま 生
(なま)[~の声] 素(す)[~の顔] 真面目
(しんめんもく・しんめんぼく)
真(ま)[~に受ける]
- 03 偽(ぎ) 虚(きょ) 虚仮(こけ) 虚偽
夢物語 一場の夢 空中楼阁
- 04 仮性 真性
仮想現実 バーチャルリアリティー
試し
- 05 不思議 七不思議 神秘 ミステリー オカ
ルト
複雑怪奇
- 06 是非 是是非非 是 非 当然
当
- 07 正邪 正(せい) 邪 邪曲 正否 否 不正
理非 曲直 順逆
可否 可不可 良否 当否
不可 不良 上の上(じょう) 下の下(げ)
- 08 本式 公式 本格 まとも 正格 正則 レ
ギュラー
略式 変格 別格 変則 イレギュラー

- 09 善悪 よしあし
- 不偏
- 10 尊厳
- 1.1040 本体・代理
- 01 体用(たいよう・たいゆう)
- 02 体(たい) 個体 単体 複体
主体 客体 本体
自体 そのもの それ自体 自身
従
自他 自 他(た) 外(ほか)
他事 その他 その外
部外 度外
別扱い 別立て 外枠
- 03 実体 正体 得体
本質
- 04 神体 人体 機体 車体 ボディー 船体
被写体 媒体
- 05 正副 正(せい) 副
二次
- 06 本物 実物 実(じつ)
名実
- 07 複製 バックアップ レプリカ
贗物(がんぶつ) 贗造物 偽造物 偽物(ぎぶつ)
偽物(にせもの) 偽者(にせもの) 偽(にせ) 偽(ぎ)
別物 仮
- 08 本人
- 09 代理 名代(みょうだい) かわり(代・替) 代替
(だいたい) 間に合わせ
親代わり 身代わり 肩代わり ダミー
掛け替え 替え玉 借り物 張り子のとら
- 10 控え 見返り 前身 後身
候補 補助 補欠 補
サブ
- 11 選択肢
- 12 代表 例
先例 前例
ためし 世のためし 先蹤 判例
- 13 見本 標本 サンプル
模型 ひな型 模式
- 14 資料 史料 ファイル データ データベース
マテリアル 素材
材料 好材料 不安材料
- 15 主(しゅ) 主流 亜流 末流
嫡流 庶流 本流 支流
本筋 メーン

[1.11 類]

- 1.1100 類・例
- 01 種類 範疇 カテゴリー
種(しゅ) 類(るい) たぐい
部類 部門 種属
種目 細目
- 02 種別 性別 年齢別 職業別
産業別 国別 地域別 時代別
- 03 品種 業種 職種 兵種 兵科

- 04 機種 金種 車種
変種 新種 変わり種 異種
同類 同種 一種
甲種 乙種 丙種
各種 多種 諸種
- 05 形式(けいしき) 様式 スタイル 手(て)[この〜の本]
ジャンル 式 タイプ パターン
型式(かたしき・けいしき) 年式 型(かた) 形(かた) 類型
スキーマ ステレオタイプ
- 07 単式 複式
違式 絞切り型 新体
文体 歌体 詩形・詩型 文型
髪型 ヘアスタイル 血液型 気候型 スペクトル型
- 08 流(りゅう) 流儀 慣例 習わし
- 09 象徴 シンボル イコン
- 10 範 模範 文範
龜鑑 かがみ(鑑)[万世の〜] 師表 手本
モデル
殷鑑 覆轍 他山の石 反面教師
- 11 典型 範型
原型 プロトタイプ
- 12 例 一例 ケース
实例 用例 作例
事例 モデルケース 通例 類例 特例
恶例 適例 好例
例外 引例
判例 症例 先例
定例

- 1.1101 等級・系列
- 01 位(くらい) 級 等(とう)
地位 階級 等級 段階 クラス
ランク 品等 グレード 級別 ランキング
親等 等親
官等 職階
層 層位 階層
冠位 位階 勲等
爵位 栄爵 勲爵 爵祿
官爵 五等爵
僧位 段 段位
- 02 上(じょう) 中(ちゅう) 下(げ)
- 03 上級 中級 下級
原級 最上級 特級
高級 低級 初級
ハイレベル トップレベル ハイクラス
トップクラス 低レベル
A級 B級 Aクラス Bクラス
上等 中等 下等 特等
高等 初等 並等
- 04 上層 下層 中間層
初段 高段
上流 中流 下流
- 05 第一流 一流 二流 三流
一線級 一級 一番
びかー 断トツ
随一 日本一(にっぽんいち・にほんいち) 三国
一 世界一 天下一
天下一品 日の下開山

索引

1. 本表に収めた語を読みによって五十音順に配列した。接辞であることを示す「-」や前に接続する語句を示す「…」は無視して配列してある。読みが同一の場合は、分類番号の一けた目で並べ、更にその中は見出し語の表記のJISコード順に配列した。
2. 番号は、本表の分類項目に付けられた分類番号と段落の番号とで示した。例えば、「国語 1.3101-03」とあれば、それは「国語」という語が、1.3101という分類項目の03段落目にあるという意味である。
3. 本表で「/」を用いて併記してある語は、併記をしないそれぞれの形で索引に収録した。例えば、「目/人目に付く」は、「目に付く」「人目に付く」の2つの形に戻してそれぞれ配列した。
4. 本表で「・」を用いて併記してある語のうち、読みが異なるものは、それぞれの形で索引に収録した。例えば「通じる・通ずる」は、「通じる」と「通ずる」の2つの形で索引に収録した。「出生(しゅっしょう・しゅっせい)」のように読みが併記されている場合も同様である。ただし、「奇跡・奇蹟」のように、併記してあっても、読みが同じものは、2つに分けずにこのままの形で索引に収録した。
5. 索引に収めた語の数は、上記の事情で本表よりも多くなる。

あい～あか

合いの手	1.3132-05	遭う[ひどい目に～]	2.3310-01	青毛	1.5605-25	赤	1.3075-11
合いの手	1.3230-04	アウストラロピテクス		あおこ	1.5400-20	赤	1.5020-07
合いの手を入れる	2.3132-05		1.5501-03	青粉	1.4321-02	闊伽(あか)	1.5130-10
愛のむち	1.3612-02	アウトアー	1.4210-10	あおさ	1.5403-05	赤赤	3.5010-02
相乗り	1.1525-02	アウト[テニス]	1.3374-12	青さ	1.5020-12	赤赤	3.5020-04
相乗り	1.1541-03	アウト	1.3374-14	青魚(あおぎかな)	1.4323-01	赤い	3.5020-04
相乗り	1.3540-04	アウトウェア	1.4210-10	青さぎ	1.5502-02	赤家蚊	1.5505-06
相乗りする	2.1525-02	アウトオブデート	3.1660-06	青ざめた	3.5020-06	赤い着物を着る	2.3410-06
相乗りする	2.1541-03	アウトコース	1.3374-14	青ざめる	2.5020-05	赤い羽根	1.3770-10
相乗りする	2.3540-01	アウトサイダー	1.2200-06	青ざめる	2.5721-16	赤色(あかいろ)	1.5020-07
愛馬	1.5501-08	アウトサイド	1.1750-14	青地	1.5020-05	赤いわし	1.4323-02
あい判・相判	1.1800-17	アウトサイド	1.1770-03	青じそ	1.5402-10	赤いわし	1.4550-04
あい判・相判	1.3151-20	アウトソーシング	1.3800-09	青写真	1.3084-11	赤馬	1.5501-08
相反する	2.1120-04	アウトドア	1.1770-06	青写真	1.3220-11	赤えい	1.5504-02
アイビールック	1.3332-07	アウトドアスポーツ	1.3374-01	青汁	1.4350-04	赤鬼	1.2030-12
あいびき	1.3520-04	アウトドアライフ	1.3330-01	青白	3.5020-02	赤がえる	1.5503-02
合いびき	1.4323-11	アウトバーン	1.4710-03	青白い[～顔]	3.5710-08	あかがね(銅)	1.5110-08
あいびきする	2.3520-02	アウトブット	1.1531-01	青信号	1.3121-02	赤狩り	1.3613-01
相等しい	3.1120-04	アウトブットする	2.1531-01	青筋	1.5604-04	赤木	1.4120-02
愛猫	1.5501-05	アウトライン	1.3070-13	青筋を立てる	2.3012-04	あがき	1.3013-04
合い符	1.4590-01	アウトレット[～ストア]		青そこひ	1.5721-25	あかぎれ	1.5720-06
愛撫	1.3392-05		1.2650-02	青空	1.5200-02	あかく	2.3014-06
合服	1.4210-07	アウトロー	1.2340-32	青田	1.4700-08	あかく	2.3390-01
愛撫する	2.3392-05	アフヘーベン	1.3071-05	青大将	1.5503-01	あかく	2.3392-18
アイブローペンシル	1.4370-02	アフヘーベンする	2.3071-03	青田売り	1.3761-18	赤くなる	2.5020-05
愛別離苦	1.3014-02	あうん	1.5710-03	青田買い[学生の～]	1.3530-02	赤くらげ	1.5506-06
相部屋	1.3333-10	あうんの呼吸	1.1302-08	青田買い	1.3761-18	赤黒い	3.5020-03
愛慕	1.3020-15	あえぎ	1.5710-04	青竹	1.5401-13	赤毛	1.5605-23
相棒	1.2200-07	あえぎあえぎ	3.3390-05	青天井	1.4460-12	赤ゲット	1.2340-63
愛慕する	2.3020-14	あえぐ[不況に～]	2.3014-01	青道心	1.5200-02	赤げら	1.5502-08
アイポリー	1.5020-15	あえぐ	2.3393-12	青菜	1.2410-29	赤子	1.2050-03
合間	1.1600-05	あえぐ	2.5710-03	青菜	1.5400-22	赤行囊	1.4514-04
合間	1.1652-07	あえて	3.1230-01	青菜に塩	3.3042-10	赤子の手をねじるよう	
曖昧	3.3068-10	あえて	3.3040-07	青二才	1.2340-41		3.1346-09
曖昧模糊	3.3068-10	あえて	3.3045-02	あおのく	2.3391-10	赤子の手をひねるよう	
アイマスク	1.4250-14	あえない	3.1200-09	あおのけ	1.1730-10		3.1346-09
相まって	3.1120-02	あえ物	1.4300-06	あおのける	2.3391-10	赤さ	1.5020-07
相まみえる	2.3520-01	あえる	2.3842-04	青のり	1.4321-02	あかぎ	1.5402-01
相身互い	1.1120-02	亜鉛	1.5110-15	青葉	1.5410-17	赤砂糖	1.4330-02
相見積もり	1.3064-04	青	1.5020-12	青旗	1.4580-13	赤さび	1.5112-01
相持ち	1.3400-11	青青	3.5020-06	青光り	1.5010-22	赤さび色	1.5020-16
相役	1.2450-01	あおい	1.5402-07	青びょうたん	1.2340-71	赤さびる	2.5160-02
相宿	1.3333-10	青い	3.3421-16	青み	1.5020-12	赤さんご	1.5506-06
愛用	1.3852-10	青い	3.5020-06	青みがかった	3.5020-06	あかし	1.1113-10
愛用する	2.3852-10	青い	3.5701-01	青みがかる	2.5020-05	あかし	1.3071-06
愛欲	1.3042-05	青息	1.5710-04	青緑	1.5020-11	赤字	1.3113-10
相四つ	1.3374-07	青息吐息	1.3030-10	あおみどろ	1.5403-05	赤字	1.3710-05
アイライナー	1.4370-02	青い鳥	1.3310-07	青み渡る	2.5020-05	赤字	1.3750-09
アイライン	1.3334-04	あおいの紋	1.3114-03	青みを帯びる	2.5020-05	赤地	1.4201-05
哀楽	1.3010-01	青色申告	1.3141-01	青む	2.5020-05	赤地	1.5020-05
愛らしい	3.3020-11	青海原	1.5260-01	あお向き	1.1730-10	アカシア	1.5401-06
アイラッシュ	1.5605-18	青馬	1.5501-08	あお向き	2.3391-10	赤潮	1.5155-09
アイラッシュカラー		青梅(あおうめ)	1.5401-05	あお向け	1.1730-10	明かし暮らす	2.1600-04
	1.4370-02	青鬼	1.2030-12	あお向け	1.3391-03	明かし暮らす	2.3330-02
アイリス	1.5402-16	青がえる	1.5503-02	あお向け	2.3391-10	赤じそ	1.5402-10
アイランド	1.2590-06	青かび	1.5403-06	青虫	1.5505-01	赤字になる	2.3710-04
愛憐(れん)	1.3020-12	あおき	1.5400-05	青物	1.5400-22	赤字になる	2.3750-02
隘路(あいろ)	1.1700-07	あおき	1.5401-10	青物	1.4323-04	あか染みた	3.5060-03
隘路(あいろ)	1.4710-16	仰ぎ見る	2.3021-01	あおやぎ[むき身]	1.4323-04	あか染みる	2.1533-02
アイロニー	1.3135-07	仰ぎ見る	2.3091-04	あおり	1.1112-13	赤しょうびん	1.5502-08
アイロン	1.4541-18	青ざり	1.5401-09	あおり	1.1511-04	あかしを立てる	2.3071-04
アイロンを掛ける	2.3841-03	あお(扇)ぐ	2.3392-03	あおり	1.3670-15	赤信号	1.1211-02
哀話	1.3131-06	仰ぐ[師と～]	2.3021-01	あおり立てる	2.1511-03	赤信号	1.3121-02
相和す	2.3500-02	仰ぐ	2.3091-04	あおり立てる	2.3670-06	明かす	2.1210-07
インシュタイン	1.2390-13	仰ぐ[毒を～]	2.3393-03	あおり付ける	2.1400-02	明かす	2.3065-20
あう(会・遭)	2.1550-09	仰ぐ[判断を～]	2.3660-02	あおり食べる	2.1112-03	明かす[身の潔白を～]	
あう(会・遭)	2.3520-01	青草	1.5400-17	あおり食べる	2.1400-02		2.3071-04
- 合う[助け～]	2.1120-01	青臭い	3.3421-16	あお(煽)る	2.1511-03	明かす	2.3141-04
合う	2.1130-04	青臭い	3.5040-02	あお(煽)る	2.3393-03	明かす[夜を～]	2.3330-10
合う	2.1550-02	青くなる	2.5721-16	あお(煽)る	2.3670-06	飽かず	3.3020-01
合う	2.1660-01	青雲(あおぐも)	1.5152-02	あか(銅)	1.5110-08	赤頭巾	1.4250-07
合う	2.3750-01	青黒い	3.5020-03	あか(垢)	1.5607-23	開かずの	3.1553-02